

都市再生整備計画(第4回変更)

ながいちく
長井地区

やまがたけん ながいし
山形県 長井市

平成27年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	やまがたけん 山形県	市町村名	ながいし 長井市	地区名	ながいしちく 長井地区	面積	743 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標
 <「水と緑と花のまち」にふさわしい景観に配慮したまちづくり>
 ・水と緑と花のまちにふさわしいまちなみの整備：自然や歴史的施設等を活かしたまちなみを整備し、まちなかの賑わいづくりを推進
 ・人と人がふれあうまちづくり：市民やまちを訪れた人達がふれあい、魅力を感じるまちづくりの推進

目 平成27年12月
 まちづくりの経緯及び現況

○長井市の現況

- ・長井市は山形県の西南部に位置し、周囲を吾妻連峰、飯豊連峰、朝日連峰の峰々に囲まれ、各々を源流とする最上川、白川、野川の3清流が貫流する、面積215km²、人口約3万人の西置賜地方の中核都市である。
- ・春から夏にかけての観光トップシーズンには、久保桜、桜回廊、白つつじ公園、あやめ公園、黒獅子まつり、ながい水まつりなどの施設や催しに、県内外から数多くの観光客が訪れる観光資源があり、近年では冬期の雪灯り回廊を開催し、通年型の観光都市を目指している。その一方、上記観光資源は通過型観光に留まっており、中心市街地への経済波及効果があまり大きくないのが現状である。
- ・中心市街地は、大手企業の営業所統廃合が進んだことや商店の廃業などで、空店舗、空き事務所が増え、地盤沈下が著しく空洞化が進んでいる。
- ・平成22年度の国勢調査結果では、市の総人口は29,476人、高齢化率29.4%、年少人口割合(0-15歳)11.9%となっており少子高齢化が進んでいる。

○これまでの取り組み

- ・国土交通省により最上川沿いを歩いて景観を楽しむ最上川フットパス整備事業が行われており、これに併せて市では、市民によるワークショップを開催し、まちなかのせせらぎや歴史的な建造物、最上川の自然などの見どころを結んだ10のまちなかフットパスルートを策定した。
- ・しかし、フットパスルートの拠点となる施設が無く、観光客や市民にとってはフットパスルート散策がわかりにくいものとなっている。
- ・市では中心部の衰退を懸念し、市内中心部のまちづくり協議会を通じて、市民のまちづくりへの機運を高めながら中心市街地の活性化対策の検討を行い、官民協働によるまちづくりを目指す活動を支援している。今年度は、中心市街地のメインとなる街路事業が採択されたが、賑わいのまちづくりの視点で魅力ある店舗と商店街づくりを具体的にどう行っていくかが問われている重要な時期となる。
- ・平成18年度から平成22年度の都市再生整備計画事業により、地域交流センター(小桜館・旧西置賜郡役所)の整備や長井駅周辺における観水公園と駅前広場の整備が行われ、これらを活動拠点としたNPO団体等(市民活動)やボランティアのガイド活動のスタート等により、イベントや観光客が増加し住民活動が促進されている。併せて、せせらぎ水路やコミュニティ歩道の整備、案内標識の設置によりフットパスルート等の魅力と回遊性が向上しフットパスルートを利用したまち歩きイベント等の増加とまちなかへの観光客の誘導につながっている。しかしながら、観光客のほとんどが通過型であり、まちなかの活性化を実現させるには、魅力を感じるまちづくりを実現し、滞在型の観光客の増加させることが必要となる。

課題

<交流人口の拡大>

- ・交流人口は近年減少傾向にある。これを防ぐために、恒常的で滞在型の観光客を呼び込める施設を景観に配慮しながら整備して、吸引力のあるまちづくりを行い観光交流人口の増加を図る必要がある。

<中心市街地の活性化>

- ・急激な少子高齢化の進行や中心商店街の衰退や雇用の場の減少等により人口が減少している。これを食い止めるためには定住人口の増加対策を推進することや、魅力ある中心市街地の整備による観光客の誘引と買い物客の引き戻しによる売り上げの増加を図る必要がある。

<魅力あるフットパスルートの整備>

- ・快適で住みよいまちづくりのためのまちなかの道路等の生活基盤の整備がまだ不十分である。居住する全ての市民や来訪者が安心して快適に過ごすためには、フットパスルートを含む道路環境の改善を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・第四次長井市総合計画では『協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”』という将来像を掲げ、その中で中心部においては観光のまちづくりを基本テーマに据えている。
- ・市民が美しさ、安心、快適性を感じられる『ながい』を市民と協働で形成していくことを目標としている。
- ・長井市都市計画マスタープランでは目標都市像を『多様な個性を尊重しあい住むことが誇れるまち』として、活力・ゆとり・生きがいのあるまちづくりを基本方針に位置付けている。
- ・本町・中央まちづくり計画書では、「お母さんと子どもにやさしいまち」をめざして、協定を締結しながら景観に配慮した人にやさしいインフラ整備、全ての世代が安心して暮らせる便利なまちづくりの推進する。また、人の流れをまちなかに取り戻す取り組み、地域の人が集えるコミュニティ機能充実と祭りやイベントの協働開催をとおしたまちづくりに参加しやすい環境づくりを目指していく。
- ・長井市景観計画では、歴史や自然・文化を生かした長井らしい豊かな景観づくりを市民、事業者及び行政の協働で行い、誰もが「愛着」と「誇り」をもつことができる長井の景観を形成していくことを目指している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
交流人口(観光人口)の減少率	%	久保桜、白つつじ公園、あやめ園、はぎ公園、黒獅子まつり、水まつりの来訪者延べ人数の減少率	来訪者のための新たな施設整備、来訪のPR等により、市の貴重な観光資源に基づく交流人口の減少抑制を目指す。	-1.6	(H22年度)	-0.7	(H28年度)
小桜館利用者数	人	小桜館(旧西置賜郡役所)の利用者数	交流人口の減少抑制及び中心部への誘導により、まちなかの賑わいを呼び戻し小桜館の利用者増を図る。	9,412	(H21年度)	13,983	(H28年度)
観光ボランティアガイド案内者数	人	市内に整備されているフットパスルート等の案内ボランティアの観光客数	フットパスルートや公園、広場、観光交流センターを整備することにより観光客数の増加と滞在時間の長期化を目指す。	7,002	(H22年度)	8,752	(H28年度)

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><人と人がふれあうまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最上川の豊かで美しい自然と舟運にまつわる歴史や文化をつなぐ最上川の河川敷にトイレ・四阿・フットパスサインを整備するとともに、これに近接して観光交流センターを整備し、潤いと安らぎの空間を確保し、魅力的な空間を創出する。 ・市民や来訪者の憩いの場として寺東いちよう公園の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園(基幹事業:寺東いちよう公園 3,400㎡) ・地域創造支援事業(トイレ・四阿・フットパスサイン整備) ・高次都市施設(基幹事業:観光交流センター(かわと道の駅) 1棟)
<p><まちなかの賑わいづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地における新たな賑わいの場とするため、広場の新設整備を行う。 ・まちなか居住人口の定住を促す宅地造成を推進するため、市道の新設及び公園の新設整備を行う。 ・賑わい創出のためのソフト事業の提案を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園(基幹事業:宅地開発公園 991㎡) ・地域生活基盤施設(基幹事業:もともち広場 1,500㎡) ・道路(基幹事業:道路新設 1箇所 410m) ・地域創造支援事業(消流雪用水配水路 1箇所 200m) ・まちづくり活動推進事業(ワークショップ開催 3協議会、景観整備支援) ・(関連事業)都市計画道路(桐町成田線町 390m)
<p><魅力を感じるまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歩くことを楽しむための小道」として市民や来訪者に親しまれてきたフットパスを、さらなる人と人との交流を高める場として、また、景観保全の観点・景観形成の取り組みから石畳による整備などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設(基幹事業:石畳・街路照明灯 3箇所 490m) ・道路(基幹事業:道路改築・路面整備・歩道整備 4箇所 610m) ・(関連事業)かわまちづくり支援事業(フットパス、船通し水路の整備など 6km)

その他

・フットパス事業

フットパスは、イギリスで発祥した歩いて自然に親しむことを目的とした小道のことで、山形県では、母なる川として親しまれ、舟運文化の歴史もある最上川沿いをフットパスでつなぐことによって、自然と歴史を体験できる最上川観光のさらなる発展を目指す。国土交通省により、最上川沿い約6kmが整備され、さらに市では、市民によるワークショップを開催し、中心市街地の名所、旧跡、景観スポットを主に小道で結んだ10ルートを策定している。

平成27年12月

・事業終了後の継続的なまちづくり活動

現在組織化されている本町・中央まちづくり協議会、宮・小桜街区まちなみづくり協議会ではまちづくり計画を策定中である。今後はまちづくりNPOとも連携しながらワークショップ形式によるまちづくり活動の展開を予定している。また、事業終了後も、まちなみの保全活動や活性化イベント等を継続的に実施し、都市再生整備計画事業の効果を最大限に高めるようなまちづくり活動を引き続き展開して行く。



あやめ公園



白つつじ公園



はぎ公園



久保桜



まちなかのせせらぎ



黒獅子まつり



桑島記念館



旧小池医院



長井小学校



文教の杜



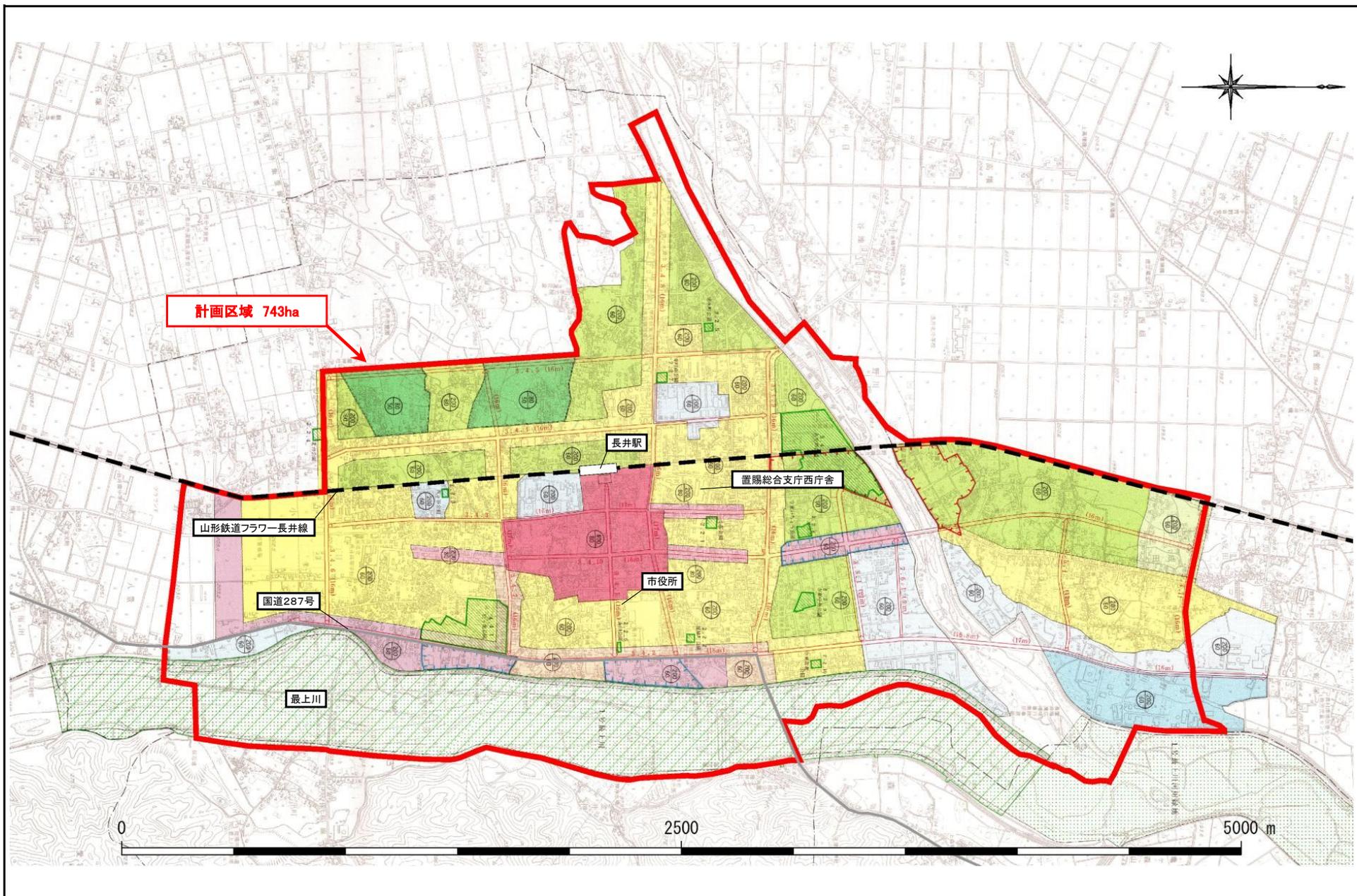
丸大扇屋



水まつり

都市再生整備計画の区域

ながいちく やまがたけんながいし 長井地区(山形県長井市)	面積	743ha	区域	あら町、大町、片田町、高野町一丁目・二丁目、幸町、栄町、清水町一丁目・二丁目、新町、神明町、台町、館町北、館町南、十日町一丁目・二丁目、中道一丁目・二丁目、成田、花作町、東町、舟場、ままの上、緑町、宮、本町一丁目・二丁目、屋城町、横町、四ツ谷一丁目・二丁目
---	----	-------	----	--



長井地区(山形県長井市) 整備方針概要図

目標	<「水と緑と花のまち」にふさわしい景観に配慮したまちづくり> ・水と緑と花のまちにふさわしいまちなみの整備 : 自然や歴史的施設等を活かしたまちなみを整備し、まちなかの賑わいづくりを推進 ・人と人がふれあうまちづくり : 市民やまちを訪れた人達がふれあい、魅力を感じるまちづくりの推進	代表的な指標	交流人口(観光人口)の減少率	-1.6	(H22年度) → -0.7	(H28年度)
		小桜館利用者数	9,412	(H21年度) → 13,983	(H28年度)	
		観光ボランティアガイド案内者数	7,002	(H22年度) → 8,752	(H28年度)	

